

議 事 概 要 書

会議名称	令和5年度 第4回社会教育委員会議（定例会）
日 時	令和6年3月19日（月） 会議：午後1時30分～午後3時00分
場 所	会議：伊那市役所 501会議室
出席者	伊那市社会教育委員：9名（欠席：1名） 教育委員会：教育長、教育次長、生涯学習課長、係長、担当
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
<p>1 開会（教育次長）</p> <p>2 あいさつ</p> <p>教育長：この季節になるとタカトオコヒガンザクラのことが気になって仕方がないところである。3月1日が雪、6日が雪で、本日の新しい情報では、明後日くらいからその翌日にかけて数センチ、場所によっては10センチの雪の予報が出ている。この時期の10センチは大変であると思っている。3月1日の雪では枝折れ等があったが、6日、10日はほとんど被害がなかった。がんばって雪の重みに耐えてくれたと思う。</p> <p>近い日で2回高遠城址公園に行った。それは、池上秀敏の生誕150年を記念しての展覧会が、市内の各館で、桜の開花を待つように、競って開館を迎えている。歴史博物館、それから信州高遠美術館が、例がないくらい充実した展覧会になっている。秀敏の実力のこれを見よというくらいの展示になっているので、すでに行かれた委員の方もいると思うが、ぜひ、お近くの方にもお声掛けいただければと思う。また、皆さまのイベント参加報告でも取り上げていただけたらと思う。令和5年度としてみますと、感染症の影響がわずかに残った年であったと思う。そういう中でも、入館者数等が上向きになっていると聞くと大変うれしく思う。</p> <p>秋の伊澤修二記念音楽祭を思い出すと、一部の高遠の文化体育館もそうであったが、県の文化会館での藝大シンフォニーオーケストラの演奏会に1000人近く入った。そのようなことを聞くと、市民のみなさんの学びへの動きが大きくなっていると思う。</p> <p>本日は、一年の取組みの総まとめになるが、2年目になった市報の「社会教育委員が行く」の欄について、皆さんのところへどのような声が届いているだろうか。イベント等参加報告が生きる大変良いコラムであると思うし、委員の皆さんの声から生まれた取り組みである。この点については想いを出し合い、次に繋げていただけたらいいと思う。</p> <p>今回で、任期をお迎えになる委員もいると聞いている。まとめの意味で、また、次につなげる意味で、本日の委員会よろしくお願ひしたい。</p> <p>会長：本日は、本年度最後になる第4回社会教育委員会議に出席いただき、誠にありがたいことである。いよいよ3月となり、それぞれの活動も終盤期に入ってきたところである。これまで、降雪や寒の戻りにより春の訪れが待たれるところであるが、高遠城址公園の桜は、今月30日に開花、4月上旬に満開になると報道されている。まもなく伊那市一円が</p>	

ピンク一色に染められるものと思われる。新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行し、公民館活動においては、サークル活動など生涯学習活動が活発に展開され、それぞれのサークル活動などの学びを通じ、地域に根差した交流の輪が広がっていることを大変うれしく拝見しているところである。私たち委員もこの一年間、各種研修会での学びに加え、委員のみなさんご推薦の「我がまちのいいところ10選」を視察させていただき、市内の歴史や文化に触れ、学ばせていただいた。

本日は、伊那市生涯学習基本構想の進行管理について委員の皆さんにご審議いただく。本日の会議、よろしく願いたい。

3 会議事項（進行：会長）

（1）令和5年度生涯学習基本構想の進行管理について

（資料に沿って生涯学習係長から説明）

<質疑・意見等>

委員：105ページの、公民館のホームページの充実を図る部分だが、長谷の公民館のイベント等に参加しているが、昨年も長谷公民館の文化祭に行ったが、主事の方が作っているホームページを印刷したものが置いてあり、私たちが参加したいろいろな活動をカラー等でまとめたものが、何冊か置いてあった。私はそれを始めて目にして、こういうものを出していたことを初めて知った。聞いてみたところ、ホームページには載せていますということだったが、ご年配の方などは、わざわざホームページをみるとか、なかなかしない。せっかく良いものを作ってあったのに、聞いてみたところ、印刷するのにお金がかかるが予算がないということを知った。公民館の活動に、皆さん参加しているようでしていない。だいたい同じ顔ぶれの方が参加している。ホームページは若い人は見るかもしれない。平日のイベント等だと参加する機会も少ない。ご年配の方は、平日でも参加できるので、出来ればペーパーにしたものを、地区の皆さんに回覧版でもいいので、見る事が出来るような予算を作っていたらありがたい。

もう一点、70ページだが、民泊体験、グリーンツーリズムの推進の箇所に関連して、自分の家も農家民泊をやっているが、昨年の夏から、友好都市の新宿の6年生が民泊に来てくれた。私の家も何件か受け入れをした。今年に入ってからは、インバウンドの方も来てくれて、1月に台湾の中学生等の受け入れを行った。今後も充実して行なっていったらよいと思っている。

課長：公民館の関係だが、公民館主事が公民館だより等をホームページにアップしていくことを定期的に行っている。委員がおっしゃるとおり、紙でやいたものを回覧するところまでは、公民館ごとに任せている部分ではあるので、カラーでも、そこまで大量に印刷しなければ何とか出来るのかも含めて検討し、エリアの中で配布物と一緒に見てもらえるよう、館長主事会の中で指示して検討させていただく。

委員：107ページの公民館の関係でC評価がある。ここについて質問になるのか、思いを述べたい。自分の地区では、健康運動教室とあって、月に一度、講師の方がいて、社会福祉協議会と区と連動して、インターバル速歩だとか、ストレッチ等の健康について行ってい

る。後任を誰かやってくれないかと言っているが、なかなか簡単には見つからない。それで、公民館の部分で、C評価がよくないという訳ではないが、文化祭を見させてもらったときに、押し花や、粘土で作った焼き物や、いろいろ多種多彩である。今年は音楽も聴かせてもらって、すごいと感じた。音楽でもサークルがたくさん出演していた。どうしてC評価なのか聞きたい。

係長：専門性もあるとは思いますが、講座を受講することに関しては、皆さん、喜んで参加してくれているが、いざ、自分が講師をやるということになると、少し尻込みをしてしまう。講座でも、講師をやっただけじゃないかと声掛けをしている中では、皆さん、尻込みしてしまい講師にまで繋がっていかない。人材育成が出来ていないというよりは、担い手がない、育たない、繋がっていかないというところで、投げかけ等しているが、結果に結びつかないということでC評価になっている。

委員：55ページで、信州型コミュニティスクールの運営委員会年間開催数の箇所だが、令和5年度の目標3回、実績が2回というなっている。コミュニティスクールの運営委員になっている方もこの中にいると思うが、CSの運営会議を私の担当のところでも、年2回行っている。しかし、ほとんど中身がないように感じる。区長の皆さん、民生委員の皆さん、安協等で構成されているが、実際にコミュニティスクールを動かしているのは支援員の皆さんである。その人たちの声のないところで、運営委員会が行われている。学校に入って、例えば野菜作りを手伝うグループの皆さんとか、稲作りを児童と一緒にやる皆さん、他には、読み聞かせをするグループの皆さんが、その運営委員会に一人も入っていない。その中で、運営委員会をやってみても答えが出てこないと思う。単純に、回数を増やせばいいというものではなく、中身の問題がCSには必要なのではないかと、実際やってみて思うところである。

もう一点、103ページで、先ほどスマホ教室の話があったが、うまくいかないということで、なぜ、うまくいかないのかを私たち年配の方が探したが、結論としては、年配の方同士がみんなでわいわいと、これ分かんない、あれ分かんないといった世界がいいのではないかと思う。1対1、あるいは、講師対大勢という形の部分で、こういう時はこうする、ああする、操作の仕方はこうだよ、といったやり方では分からない。分からない同士が集まって、「こういう時どうしたらいいのか」、「それは知っているよ」といった感じの方がいいと思う。実際に、スマホカフェといって、月に3回ほどご年配の方が集まって、コーヒーを飲みながら、分からないことに対し先生を一人置いて、それ以外はすべて仲間同士でやっている。一つずつ一つずつだんだん分かってきている。今、なぜスマホが必要なのかというと、ラインというものがあるが、伊那市にもラインの公式のアカウントを持っている。私自身、登録している。非常にいい情報がどんどん入ってくる。伊那市のラインのアカウントはどうなっているかということ、従来ならペーパーでアンケートをとらなくてはいけないところ、市政等に対するアンケートを行っていきまうとなっていて、質問から始まる。それを無作為に市の方から入れて、こちらの方も誰がとか年代を書くようになっていく質問もあるが、そのような形でどんどん進んでいる。他にも、QRコードはスマホがないと読み込み出来ない。パソコンでは出来ない。そう

いった部分でもスマホを使いこなせるようなことが必要ではないか。うまくいかないことも、あるかもしれないが、もっとご年配の皆さんが、電話以外にスマホを使えるような仕組みを作っていないと、これからいろいろが難しくなっていくだろうと思う。

委員：今のご意見に関連してだが、コミュニティスクールの関係だが、ちょっと自分の地区ではまた違うのだが、また、それぞれの学校や地域でも違うかもしれないが、私も小学校の信州型コミュニティスクールの運営委員会をやっている、そこには、4本柱で農業、昼食の事前指導みたいなもの、読み聞かせ、学習支援といった形だが、昼食支援が結構な目玉で取り組んでいる。ここに自分は何も関わっていない。関わればいいだけの話だが、そういった形で引き受けてやってきている。自分が関わっていないが、社会教育委員の研修でも信州型コミュニティスクールの話がある。聞いてきたことを、すぐに学校へ、ああした方がいいとかいうのも嫌ではある。かといって、何も関わらずぽつんというのも良くないと思うので、そのような意見を出したり、もう少し地域とやってきた最前線の声を、もっと出した方がいいのいいのではないかということはあるが、私自身が、どういう立ち位置なのか迷っているしだいである。

会長：私も、信州型コミュニティスクールの中で、学習支援、それから1年生の4月入学してすぐからの50日間の給食支援等、様々なところで関わらせていただいているが、うちの小学校の場合は、読み聞かせ、また私たちの区に自然環境を守る会という会があって、その人たちが麦を撒き、麦を踏む、そして収穫して、パンにするとか麺にするとか、いろいろな活動をしている。成果品も学校の児童の皆さんも収穫して製品にして食すというようなことを行って、うまく循環していると私はみている。ですので、私も、1年生、2年生を学習支援で関わらせていただいているが、児童の皆さんとの交流を楽しんでいる。また、1年生の給食支援は、保育園で給食を食べてきているので、もう何年もやってきているが、最初に関わったころに比べると、児童の皆さんは上手に給食室から食缶を持ってきて、盛って、配膳して、食して、食器を片付け、掃除をするところを支援しているが、上手に出来ているなど思っている。ですので、様々なところで、信州型コミュニティスクールの中で、出来る分野に関わった地区の皆さんの教えを賜りながら、学校と住民の皆さんが、共に子どもたちを育てていこうって方針のもとに、長年取り組んでいて、自分の地区ではいい成果が出ていると見ている。今後も、地域の人たちが学校を支え、児童の皆さんを育てていただき、また登校時や帰宅時の支援、見守りといった支援が、脈々と繋がっていると嬉しくみている。良いところは、大いにPRしていただき、後継者を育て、学校を地域の皆さん皆で支えていただけるような活動が出来たらよいと思う。

委員：コミュニティスクールを運営している部分についてはいいのだが、コミュニティスクールの運営委員会の中身がダメという話である。皆さんは、運営委員会でもどんなメンバーでどんな話をされているか。

会長：私の地区の運営委員会も、同じような形で、学校評議員、区長会、民生委員、体育指導員のような方、自然環境を守る会のような地区の関係団体の皆さんで、会議を行っている。実際に支援しているメンバーも、こちらの地区では入っている。

委員：スマホ教室に関連してだが、以前、高遠の進徳館の日の時に、高遠高校の生徒が、スマホの扱い方について、高遠中学校の生徒に教えに行ったという報告があった。それを聞いて、高遠高校の生徒が私たちにも何か教えてくれるような機会があったら良いと思った。高校生くらいになると、公民館との行き来もなくなってくる。そのような時に、公民館活動の中で、高校生は結構専門的な分野を勉強しているところがあったりするので、上伊那農業高校でも教えてくれたことがあったりした。高校生が、公民館の講師のようなことを、スマホに限らず、そのようなことが出来たらよいと思った。

(2) 社会教育委員関連事業について (令和5年度報告)

(令和5年度行った事業について係長から説明)

(3) 令和5年度社会教育委員の実践活動について

・イベント等参加報告、地域の話題 (各委員から報告)

- 1) 歴史講座「伊那の近現代史を学ぶ」
- 2) 伊那市人権同和教育講座講演会
- 3) 合同講座「高橋白山と信州教育」

(4) 社会教育委員活動一年を振り返って

・令和5年度からの委員より

委員：冊子を見たりしたときに、コロナでいろいろ制限されてきたが、この2年間は少し収まってきて、イベントの数も増えてきた。中身も豊富で、社会教育委員として多くを学ばせてもらった。やはり、社会教育、生涯学習教育は裾野が広く、奥が深い。家庭の問題、学校の問題、社会問題等いろいろあって、これはまだまだ食いかじっているくらいだと、そんな思いである。皆さまにはお世話になった。感謝の思いである。

委員：この2年間、みなさまには迷惑をかけてしまったが、仕事と両立させるということは大変なことだと思った。公民館の活動で子どもたちと一緒に、いろいろな事を行ったり、宇宙の学校とか、他の自分の好きなことで一緒にお手伝いをしたり、中尾歌舞伎のお手伝い等、自分が出来る範囲でしか活動していないが、自分なりに出来ることを少しずつ行ってきたと思う。もっともっと地域のことや伊那市のことを知っていかなくてはいけないと思った。

委員：社会教育委員の会合や地元の小学校の運営委員会等へ参加して、今年は部活をどうするかという話をたくさん聞いた気がする。話を聞いていて、私も去年は、部活は公民館へ移行すればいいのではないかと思ったが、公民館へ公民館へ公民館へという話が、かなり聞かれてきて、そうなる、今まで学校がすごく大変であったことを、そのまま公民館の方へ移行していったら、今度は公民館が大変になるのだろうと思ったりした。変革期に来ているとは思いますが、学校も良くなって、公民館も良くなって、どこかにただ移行するのではなく、少しずつ少しずついろいろなところで分担しあっていけるようになっていけたらよいと思う一年であった。

委員：社会教育委員になって、いろいろなことを学ばせていただいたことが、私にはとても喜びとなっている。そして、地域を知る、人々に関わるということが宝物のように思っている。子どもたちから、また、私たち皆が交流して共に学び合い、お互いに思いやる、そういった心を育てていくことが、社会教育の基本にあるのではないかと気づくところである。2年というか、私もこれで任が終わるが、お世話になったという感謝の思いである。

委員：最初は、何をやっていいのか分らなかったが、いろいろ研修会に参加して、他の市町村の委員の皆さんも、出来ることを、自分の出来る範囲で、自分のペースで行っているのだと話を聞いて、肩の荷が下りた気がした。でも、皆さんの根底には、自分の住んでいる町を良くしたいという気持ちが、いっぱいあるのだということも感じられた。そして、研修会に行くときに、車の中で、いろいろな話が聞けたということが、私的にはとてもよくて楽しかった。お世話になった。感謝の思いである。

委員：私も、社会教育委員だよりに書いてあるとおりの2年間であった。社会教育というのは基本的には、公民館活動がやはり基幹であると思っている。全国で、寺中構想の公民館を行っているのは、長野県だけになってしまっている。これは、全国的に長野県の公民館活動はとても注目されている。なぜかという、公民館というのはどのように変っていったのかという部分の中では、それぞれの県の公民館がなくなった理由は、カルチャーに変わってしまった。講座、それをやるのが公民館の役割だと変わって行って、その後、行政の中に吸収されてしまった。それで公民館という姿は消えてなくなってしまった。カルチャーの部分では、そのような形で今も存続しているが、本来の姿というのは、地域と共にあるというのが寺中構想である。それを、活かしているのが長野県で、ここへきて注目されているのは、今の学校の教育のあり方の中に、社会教育と学校教育をどこかでリンク出来ないだろうかといところで、長野県の公民館がすごく注目されている。そのようなお話をさせていただき、2年間のあいさつとさせていただく。

委員：最初に、社会教育委員を受けたときは、1期でおしまいしようと思って、2年で私はだめだと思ったら、ここで、同じ地区の委員さんが辞められるということになり、二人一緒に辞められないと思い、引き続きお世話になる予定だが、何をやっていいか分からなかったが、先ほど、別の委員さんも言っていたが、公民館の活動に参加しなければ、まず、地域のことが分からないなと思い、公民館の講座にはなるべく参加するようにしてきた。そこで、いろいろな人たちと知り合い、また違う話を聞いて、ああ、そういう活動もあるのだという興味も湧き、そのようなところにも出かけられるようになった。また、狭い中でしか勉強をしてこなかったが、そういうことも違うところで活かされることもあるのだと、とても勉強になった。まだまだ、どのように活動していいか分からない部分もあるが、もう少し頑張らなくてはいけないと思っている。よろしく願いたい。

委員：3期6年間お世話になった。感謝申し上げます。社会教育委員としては、ずっと何をやればいいのかとか、社会教育委員という役は、何をするのかとか、紙面や研修会等ではいろいろ言われているが、私的にはこのような会議に参加して、発言をしたり、レポートを書いたり、その他、地区の公民館へ参加したり等、そういうことしか出来なかったが、大変

勉強させていただいた。6年間お世話になり、感謝申し上げます。

委員：5期10年間、社会教育委員としてお世話になった。この間、皆様方が推薦してくれた「我がまちのいいところ10選」に、この10年間で、50箇所ほどの良いところを視察させていただいた。知っているようで知らない伊那市であった。知っているだろうと思っていたが、知らないところばかりであった。良い学びをさせていただき、伊那市の東から西まで、様々な文化や歴史、施設等を視察させていただく中で、研修をさせていただいたことは私の宝になると思う。また、皆さまとご縁が出来、お知り合いになれたことも私の財産であると思う。感謝申し上げます。

4 その他

- ・次回の会議予定について（第1回社会教育委員会議 4月19日（金））

教育長：先ほども申したが、また、会議のたびに申してきたが、社会教育委員の皆さまは、本当にご自身で歩かれ、丁寧な取組み重ねていただき、それぞれの任の責任にあたるどころを担っていただいたと思う。毎月、「社会教育委員が行く」の欄を、本当に楽しみにしている。あの欄が市民の皆さんに、あのようを書いてあったから、今年行ってみようと思った等、そのような声をもっと多く集まっても良いのではないかというくらい、あの欄が好きである。そうした取組みや、提案性の高い発言をいただいている。事務局もしっかり受け止めさせていただき、これからの生涯学習に関わる取組みを作っていかななくては思っているところである。感謝しつつ、お礼とさせていただきます。

5 閉会（会長）